

若桜地域活性化に向けた製品提案

Production of a Prototype model for Revitalization of the Wakasa Region, Southeastern Tottori Prefecture

壁掛けクロック、S L スツールの試作提案

Production of a Prototype model of a SL-clock and a SL-stool

花田好正*・草野浩幸**・亀崎高志*・谷岡晃和*

Yoshimasa Hanada, Hiroyuki Kusano, Takashi Kamezaki and Akikazu Tanioka

*電子・有機素材研究所 産業デザイン科、**電子・有機素材研究所

若桜地域の活性化と地域産品（木製品）の創出につなげるものとして、若桜駅構内に展示されている蒸気機関車（S L）をモチーフとした壁掛けクロック、S L スツールを試作し、提案を行った。

1. はじめに

鳥取県の東南端に位置する若桜町(わかさちょう)は、兵庫県、岡山県に接する人口 3,873 人（平成 22 年国勢調査）、面積 199 km²、林野率 94.7%の山間の町である。町域のほぼ半分は中国地方第 2 の高峰である氷ノ山の西峰部を占め、町内には、スキー場、キャンプ場等の観光資源を有する。

同町は、鳥取と姫路を結ぶ若桜街道の宿場町として、過去は栄えるとともに、豊富な森林資源を有し、木材の集散地としても栄えていたものの、現在では過疎化、少子高齢化が進んでいる。同町吉川のスギ材は銘木として知られ、皇居豊明殿の天井板にも使用されている。

町内には、街道沿いに国道と鉄道路線“若桜線”が整備されている。若桜線は日本国有鉄道の民営化の際に分離され、現在では、第 3 セクター若桜鉄道株式会社が運営する路線距離 19.2 k m、駅数 9 駅の路線である。利用者の減少等、厳しい環境の中で若桜鉄道の活性化、そして若桜鉄道を核とした地域おこしの取り組みがなされており、平成 20 年には、全国で初めて沿線の鉄道関連施設が国の有形文化財に登録された。

地域おこしの取り組みの一つに蒸気機関車（S L）に関わる鉄道遺産の復元があり、若桜線の終着駅である若桜駅構内には蒸気機関車 C 1 2 型 1 6

7 号が展示され、鉄道ファンらの注目を浴びつつある。（図 1）

今回、産業技術センターでは、S L にちなんだ地域産品（木製品）の創出につなげるものとして、“壁掛けクロック 『C 1 2 1 6 7』”“S L スツール 『C 1 2 1 6 7』”、を製作し、若桜町役場他関係機関に提案したので、ここに報告する。



図 1 若桜駅構内の蒸気機関車 C 1 2 型 1 6 7 号

（画像は鳥取県ホームページより）

2. 製品の企画

2.1.1 調査

新たな地域産品（木製品）創出を目的に若桜駅と隣接する道の駅の物販施設等において調査を行ったところ、若桜町では鉄道、S L を一つの核とした

地域おこしに力を入れられているが、SLに因んだ土産物商品が少なく、また、地元の木地師による椀や盆等の木製品は販売されているものの、消費者、購買者ターゲットを設定し、現代のライフスタイルにあわせた商品はみられなかった。

このような状況をもとに、若桜町の観光資源であるSLと素材の有効活用に着目して、若桜駅構内に展示のSL『C12型167号』に因んだ鉄道ファン、SLファンに向けた製品を企画し、製作することとした。

2.1.2 メインモチーフ

若桜駅構内に展示されているSL『C12型167号』は、かつて国鉄若桜線で運行され、兵庫県多可町に静態保存されていた車輛を、関係者の熱意による誘致活動、経費に係る募金活動等を経て、譲り受けられたものである。

現在では圧縮空気を用いた走行が可能であり、体験運行は観光資源となっている。

『C12型167号』にかける関係者の熱意、想いを汲み、型式番号をメインモチーフとすることを着想し、ナンバープレートとSL前頭部を模した形状を活かした製品を開発することとした。

2.1.3 製品企画

円盤にナンバープレートを組み合わせた形状と、鉄道から連想される“時刻表”、“鉄道ダイヤ”、“時刻どおりの発着”というイメージから、壁掛け時計を開発製品として企画した。

また、掛け時計の円盤形状の部材を活用した製品展開を考え、同一の部材を活用したツールを企画、作製することとした。

材料には、若桜の地名に“桜”の文字が入ることと、若桜駅構内の給水塔、転車台の傍にも桜並木があり、桜の花の季節には撮影スポットとなっていることから、サクラ材を使用することとした。また、ツールについては、サクラ材の製品と、町内の銘木である吉川のスギ材を使用した製品を製作した。

3. 製作

3.1 壁掛けクロック C12 167

文字盤をナンバープレートの取り付けられたSL前頭部をモチーフとした形状とした。文字盤の直径は260mm、厚みは25mmとした。重厚感をもたせるため、厚めの寸法とした。

加工はイメージスケッチを元にCADデータを作製し、NC加工機により行った。

デザインモチーフであるSLのイメージを強く打ち出すために、時刻を示す数字は省略した。

塗装は、SLを連想させる黒色とし、木目模様を活かした仕上げとした。

ナンバープレートの縁および型式番号は金色の塗料の筆塗りにより仕上げた。(図2)



図2 壁掛けクロック C12 167

3.2 SLツール C12 167

座面は、壁掛けクロックの文字盤と同形状、ナンバープレートの取り付けられたSL前頭部をモチーフとした形状とした。

座面の直径は260mm、厚みは35mmとし、加工等は3.1節と同様にした。ツールの脚は4本とし、脚部材の断面形状は鉄道レールのそれに似たものとした。座面の高さは310mmとした。

塗装は、SLを連想させる黒色と、木材の表情を活かした木地仕上げとした。(図3)



図3 SLスツール C12 167



図4 提案事例（展示事例）

4. おわりに

今回、SLに因んだ地域産品（木製品）創出に向けて、壁掛けクロックとスツールの試作を行った。

試作品については、若桜町役場、若桜鉄道株式会社等、関係機関に提案するとともに、機会をとらえて展示、意見の聞き取り等を行っている。（図4）

今後、改良を加えるとともに、シリーズ展開等も検討し、地域産品の創出、地域の活性化につなげていきたい。